

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	森下 左知子
2. 審査委員	主 査：（鳴門教育大学教授） 葛西真記子 副主査：（兵庫教育大学教授） 松本 剛 委 員：（上越教育大学教授） 五十嵐透子 委 員：（兵庫教育大学教授） 海野千畝子 委 員：（鳴門教育大学教授） 小倉 正義
3. 論文題目	教師が困難な状況乗り越える成長過程における管理職・同僚とのかかわり ～自己心理学的視座からの考察～
4. 審査結果の要旨	論文提出による学位申請者 森下左知子 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時： 令和 6年 2月13日（火） 16時30分～18時00分 場所： 鳴門教育大学 共通研究A棟4階 419室 Zoomオンラインによるハイブリッド 1. 学位論文の構成と概要 本論文は、以下に示す全5章から構成されている。 第1章 教師の精神的健康の現状と研究の目的 第1節 教師の精神的健康の現状とその影響 第2節 教師の精神的健康に関する研究 第3節 対策に関する課題 第4節 学校教育における自己心理学の有用性について 第5節 自己心理学について 第6節 本研究の目的 第2章 教師が困難な状況乗り越える成長過程における管理職・同僚とのかかわり ～自己－自己対象体験がもたらす影響に注目して～ 第1節：目的 第2節：方法 第3節：結果 第4節：考察 第5節：おわりに 第3章 教師が困難な状況乗り越える成長過程における管理職・同僚とのかかわり ～動機づけシステム理論における感情体験に注目して～ 第1節：目的 第2節：方法 第3節：結果 第4節：考察 第5節：おわりに

第4章 教師から管理職への成長過程における同僚とのかかわり

～自己－自己対象体験・動機づけシステム理論に注目して～

第1節：目的 第2節：方法 第3節：結果－ライフストーリーの意味づけ 第4節：考察

第5節：おわりに

第5章 本研究の総括と今後の課題

第1節：各章のまとめ 第2節：総合的考察 第3節：本研究の課題と今後の展望

概要は以下の通りである。

まず、第1章では、教師の精神的健康の悪化の現状を改善するためには、教師がストレスを抱えると考えられる困難な状況乗り越える過程を教師の成長過程として捉え、その過程での職場の管理職や同僚とのかかわりについて一定の方向性を示すこと、併せて教師の職務の特殊性を鑑みつつ、対人援助職特有の感情体験が生じることも視野に入れながら、教師の精神的健康の維持や促進のための支援のあり方を具体的に示す必要があることがわかった。そこで、他者とのかかわりと自己の成長について詳細に捉えたKohutが提唱した精神分析的自己心理学（Kohut, 1971, 1977）（以下、自己心理学と示す）の視点から、教師の成長過程と精神的健康について検討することを指摘した。自己心理学では、自分以外の対象（自己対象）との間で心理的に支えられているという体験である自己－自己対象体験により自己の成長が促されるとされている。この過程を整理し、詳細に捉えるため、①教師としての自己の成長を促す自己－自己対象体験についての検討、②教師の自己－自己対象体験をより詳細に捉える動機づけシステム理論における感情体験についての検討、③教師の成長過程を長期的な時間軸で捉え、自己－自己対象体験、動機づけシステムを検討し、教師としての成長過程に自己対象がどのように展開されるかを検討することとした。

第2章では、教師が困難な状況乗り越える過程における管理職と同僚とのかかわりにより、自己心理学における自己－自己対象体験がもたらす教師の成長過程と教師への支援のあり方について検討するため、教師にインタビュー調査を実施し、インタビューデータの逐語録をS C A T (Steps for Coding and Theorization)により分析し、得られた結果を、管理職や同僚とのかかわりになどによる自己－自己対象体験の過程として考察した。すべてのストーリーラインに若手教員の頃のエピソードが示され、若手教師の困難な状況が示された。また、自己－自己対象体験であると考えられる経験が受容、安心といった気持ちを形成し、教師としての自己の成長の促進が示された。

第3章では、教師が困難な状況乗り越える過程において、同僚や管理職等の他者とのかかわりから生まれる感情は、Lichtenbergの動機づけシステム理論における自己－自己対象体験により引き起こされると仮定し、それはどのように自己組織化し、自己安定を導くのかを自己心理学における感情体験を焦点化した質的研究により検討するため、教師にインタビューを実施し、インタビューデータの逐語録を定性的コーディングの演繹的アプローチを参考に分析した。その結果、教師の自己－自己対象体験である7つの動機づけシステムが機能していることが確認された。また、各動機づけシステムの相互性を踏まえることにより、困難な状況におかれている教師の連続的な感情体験が、何を導き出すための営みであるかという理解が促進され、教師が周囲への適切な対応を求めることができる可能性も示された。

第4章では、教諭としての職務を経て管理職として勤務している教師が、自身の教師としての成長過程において出会った教師に対し、また、管理職となってから勤務する所属校での教師に対し、どのよう

なかかわりを経験してきたのかを自己心理学の視座から検討するため、管理職にインタビュー調査を実施し、インタビューデータを研究協力者とインタビューアの語りとするシークエンス分析を行い、得られた結果を自己心理学の視座から検討した。結果、教師の成長過程により自己-自己対象体験は変容すること、自身が経験した自己-自己対象体験は管理職としての営みに影響を及ぼす可能性が示された。

最後に、第5章では、本研究で得られた結果を概観し、教師の精神的健康の維持・促進や教師の適切な成長がのぞまれる学校教育現場での自己心理学の知見の有用性について考察した。教育的課題が山積する現代、自己-自己対象体験が教師としての成長にとって必要なことであるということを示した。今後の展望として、教師と管理職、教師と同僚教師と児童生徒など、自己-自己対象体験がどのように相互的に影響しているのかを詳細に検討することや、教師の成長を促進する教師集団を自己心理学的に考察すること、また、教師が自己心理学的視座により自身の自己の成長を確認することで、同じように自己-自己対象体験を経て成長する児童生徒に対する理解が促進する可能性を示した。

2. 審査経過

(1) 学位論文の独創性と発展性について

本研究の独創性は、教師の精神的健康の悪化が注目される中、困難な状況に陥りながらも精神的健康を保ち、困難を乗り越えた教師に焦点を当て、インタビューによってあきらかにしたことにある。特に教師の成長過程を、他者とのなかかわりと自己の成長から詳細に捉えたKohutが提唱した精神分析的自己心理学の視点と、Lichtenbergの動機づけシステム理論における自己-自己対象体験の視点から、検討した点である。本研究は、同僚との関係性・管理職等他者との関係性から検討するために様々な角度からインタビューが行われ、結果についてはSCAT、定性的コーディングの演繹的アプローチ、シークエンス分析などそれぞれのデータに最適な方法で分析が行われており独創性を認められた。

教育現場では「チーム学校」など同僚や関係者との連携が求められており、本研究の対象者のように同僚や管理職など他者との関係性から困難を乗り越えることができる教師も多いが、今後はそれ以外の研究として、個の力に焦点を当てた研究、児童生徒との関係性に焦点を当てた研究、乗り越えることができなかった教師への研究など本研究の発展性も多いに認められた。

(2) 学校教育の実践への貢献あるいは社会的貢献

本研究の学校教育の実践への貢献は以下の2点である。まず、多くの教員は困難な状況に陥った経験をもちながらそれを乗り越え、精神的健康を保っているということを示すことができた点である。教師は日々、目の前の児童生徒への学習指導、生徒指導、教育相談、保護者への対応、同僚との関係など、対応に苦慮することがある。そのような体験を学校内外の他者とのなかかわりによって乗り越えること、精神的健康を保つことが可能であることを示すことができた。二つ目は、教師の成長過程を精神分析的自己心理学の理論から説明することによって、教師の感情体験をより理解することが可能となった。これらの研究結果は、教師の精神的健康を保つために必要なことを明らかにすることができ、今後、学校教育の実践において大いに期待できる貢献であった。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は、森下左知子 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。